

汗の悩みに対する新しい治療

多汗症は、汗の量が非常に多いため日常生活に支障が出ている状態です。手汗や脇汗に対する外用治療では、部位や重症度に応じた薬剤選択が大事です。まず、手汗・脇汗のいずれにも用いられてきた代表的な外用剤が塩化アルミニウム製剤です。主にローションや外用液の剤型で、汗腺の出口を物理的に詰まらせることで発汗を抑制します。主な副作用はかゆみ、かぶれなどの症状です。

近年、腋窩多汗症に対しては外用抗コリン薬が登場し、9歳から使用可能となりました。これらは汗腺への神経刺激を抑えることで発汗を減少させます。剤型はゲルやシートタイプなどがあり、使用後比較的早期、数日以内に効果を実感する例も少なくありません。さらに同様の抗コリン薬が手掌多汗症にも適応が広がり、治療の選択肢が増えています。

副作用としては乾燥、刺激感に加え、まれに口渇や目のかすみなどが報告されていますが、多くは軽度です。多汗症によって社会活動や他人との交流をためらってしまい、その緊張とストレスで症状が悪循環になってしまうケースがあります。症状や生活への影響を考慮し、皮膚科専門医の指導のもとで適切に使用することが大切です。

令和8年 6月

久米 昭廣